

市民意識調査の再分析結果報告書

本再分析は、「野々市市第二次総合計画中間見直しに向けた市民意識調査」（以下「意識調査」といいます。）の結果について、単純集計では把握しにくい回答間の関係を読み取り、野々市市第二次総合計画後期基本計画の策定の方向性を整理するものです。

1 子育てと教育環境の関係について

意識調査の「問 11⑤子育てしやすい」と、「問 11⑦子どもたちの教育環境が充実している」の回答結果とのクロス集計結果は、次のとおりです。

なお、表中の数値は件数を、（）内の数値は、割合を示しています。割合の母数は、「問 11⑤子育てしやすい」のそれぞれの選択肢の回答数を合計したものです。

また、各解答中、回答割合の高いものの上位第1位と第2位に網掛けをしています。

以下の回答件数や割合についても同様の記載としています。

		問 11⑦子どもたちの教育環境が充実している				
		1 そう 思う	2 やや 思う	3 さ ほ ど 思 わ な い	4 思 わ な い	5 わ か ら な い
問 11 ⑤子育てしやすい	1 そう思う	48 (32.4)	75 (50.7)	15 (10.1)	2 (1.4)	8 (5.4)
	2 やや思う	11 (4.2)	143 (54.0)	78 (29.4)	7 (2.6)	26 (9.8)
	3 さほど思わない	2 (1.9)	22 (21.2)	61 (58.7)	10 (9.6)	9 (8.7)
	4 思わない	0 (0.0)	1 (3.8)	10 (38.5)	15 (57.7)	0 (0.0)
	5 わからない	4 (3.8)	10 (9.5)	3 (2.9)	4 (3.8)	84 (80.0)

「子育てしやすい」について「そう思う」と回答した人では、「子どもたちの教育環境が充実している」についても、「そう思う」と「やや思う」の合計が 83.1%となっています。これに対して、「子育てしやすい」について「さほど思わない」と回答した人では、「子どもたちの教育環境が充実している」についても「さほど思わない」が 58.7%となっています。

このことから、子育てのしやすさに対する評価は、保育や子育て支援サービスだけではなく、学校教育や学習環境に対する評価とも関連していると考えられます。

		問 13－ 1 ⑪子育て支援の満足度				
		5 満足	4 やや満足	3 どちらとも言えない	2 やや不満	1 不満
問 11 ⑤子育てしやすい	1 そう思う	36 (24.7)	67 (45.9)	38 (26.0)	4 (2.7)	1 (0.7)
	2 やや思う	12 (4.5)	96 (36.2)	136 (51.3)	16 (6.0)	5 (1.9)
	3 さほど思わない	2 (2.0)	11 (10.8)	72 (70.6)	15 (14.7)	2 (2.0)
	4 思わない	0 (0.0)	2 (7.7)	9 (34.6)	5 (19.2)	10 (38.5)
	5 わからない	3 (3.0)	8 (7.9)	87 (86.1)	2 (2.0)	1 (1.0)

		問 13－ 1 ⑪子育て支援の重要性				
		5 重要である	4 やや重要である	3 どちらとも言えない	2 あまり重要でない	1 重要でない
問 11 ⑤子育てしやすい	1 そう思う	106 (75.2)	25 (17.7)	10 (7.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
	2 やや思う	142 (55.9)	71 (28.0)	41 (16.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
	3 さほど思わない	45 (43.7)	34 (33.0)	23 (22.3)	0 (0.0)	1 (1.0)
	4 思わない	16 (64.0)	3 (12.0)	5 (20.0)	1 (4.0)	0 (0.0)
	5 わからない	56 (55.4)	21 (20.8)	22 (21.8)	0 (0.0)	2 (2.0)

また、「子育てしやすい」について「そう思う」と回答した人では、「子育て支援の満足度」についても、「満足」と「やや満足」の合計が 92.9%となっています。これに対して、「子育てしやすい」について「思わない」と回答した人では、「子育て支援の満足度」についても「不満」が 58.7%となっています。これに対して、「子育てしやすい」について「さほど思わない」と回答した人では、「子どもたちの教育環境が充実している」についても「さほど思わない」が 38.5%となっています。

一方で、「子育て支援の重要性」については、「子育てしやすい」と感じているか否かにかかわらず、「重要である」が最も高い割合となっています。このことから、子育て支援は一定の評価を得ていますが、今後も継続して重視すべき施策であることが考えられます。

以上の結果を踏まえると、子育て支援、学校教育及び地域での見守りを個別の施策として捉えるだけでなく、妊娠期から就学期にかけて切れ目のない支援を提供していくことが重要です。

2 住みやすさと防災対策について

意識調査の「問 10⑩住みやすいまち」と、「問 11⑥災害に対する備えができている」の回答結果とのクロス集計結果は、次のとおりです。

		問 11⑥災害に対する備えができている				
		1 そう 思う	2 やや 思う	3 さ ほ ど 思 わ な い	4 思 わ な い	5 わ か ら な い
問 10 ⑩住みやすいまち	1 そう思う	41 (10.8)	140 (36.7)	125 (32.8)	16 (4.2)	59 (15.5)
	2 やや思う	4 (1.8)	56 (24.8)	103 (45.6)	21 (9.3)	42 (18.6)
	3 さほど思わない	0 (0.0)	1 (3.2)	10 (32.3)	11 (35.5)	9 (29.0)
	4 思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (22.2)	4 (44.4)	3 (33.3)

「住みやすいまち」について「そう思う」と回答した人でも、「災害に対する備えができている」について「そう思う」は10.8%で、「やや思う」を含めても47.5%と半数を下回っています。住みやすさについて評価が高い層でも、防災面での備えについては十分な実感に結び付いていないことが考えられます。

		問 13-1 ⑬防災対策の満足度				
		1 満 足	2 やや 満 足	3 言 え な い ど ち ら と も	4 やや 不 満	5 不 満
問 11 ④子どもから高齢 者まで安心して 暮らせる	1 そう思う	24 (18.9)	47 (37.0)	50 (39.4)	6 (4.7)	0 (0.0)
	2 やや思う	8 (2.4)	82 (25.0)	206 (62.8)	29 (8.8)	3 (0.9)
	3 さほど思わない	1 (0.7)	21 (15.7)	94 (70.1)	17 (12.7)	1 (0.7)
	4 思わない	0 (0.0)	3 (11.5)	15 (57.7)	7 (26.9)	1 (3.8)
	5 わからない	0 (0.0)	2 (7.4)	22 (81.5)	2 (7.4)	1 (3.7)

		問 13-1⑩防犯・消費者安全の満足度				
		1 満足	2 やや満足	3 言えない どちらとも	4 やや不満	5 不満
問 11 ④子どもから高齢者まで安心して暮らせる	1 そう思う	27 (21.3)	51 (40.2)	45 (35.4)	4 (3.1)	0 (0.0)
	2 やや思う	12 (3.7)	62 (19.1)	231 (71.1)	19 (5.8)	1 (0.3)
	3 さほど思わない	1 (0.7)	9 (6.7)	102 (76.1)	21 (15.7)	1 (0.7)
	4 思わない	0 (0.0)	4 (15.4)	14 (53.8)	5 (19.2)	3 (11.5)
	5 わからない	1 (3.7)	4 (14.8)	17 (63.0)	3 (11.1)	2 (7.4)

また、「子どもから高齢者まで安心して暮らせる」についての回答内容にかかわらず、「防災対策の満足度」と「防犯・消費者安全の満足度」は、いずれも「どちらとも言えない」と回答した人が多くなっています。特に、「防災対策の満足度」については、「子どもから高齢者まで安心して暮らせる」について「そう思う」と回答した人でも、「満足」と「やや満足」の合計が 55.9%となっており、「防犯・消費者安全の満足度」の 61.5%をやや下回っています。

以上の結果を踏まえると、防災対策は、防犯・消費者安全に比べて、取組の効果や備えの状況が市民に伝わりにくく、自分ごととして実感されにくい可能性があります。今後は、より一層、避難所、防災訓練及び地域での支え合い体制等について、市民に分かりやすく情報を発信するとともに、日常生活の中で防災を意識できる機会を増やしていくことが重要です。

3 地域のふれあいや生活の安心感について

意識調査の「問 10⑨ふれあいのあるまち」と、「問 11③住民同士が支え合って生活している」の回答結果とのクロス集計結果は、次のとおりです。

		問 11③住民同士が支え合って生活している				
		1 そう 思う	2 やや 思う	3 さ ほ ど 思 わ な い	4 思 わ な い	5 わ か ら な い
問 10 ⑨ふれあい のあるまち	1 そう思う	31 (37.8)	34 (41.5)	12 (14.6)	2 (2.4)	3 (3.7)
	2 やや思う	14 (5.6)	140 (55.8)	76 (30.3)	8 (3.2)	13 (5.2)
	3 さほど思わない	3 (1.1)	63 (22.7)	148 (53.4)	38 (13.7)	25 (9.0)
	4 思わない	0 (0.0)	2 (5.4)	8 (21.6)	20 (54.1)	7 (18.9)

「ふれあいのあるまち」について「そう思う」と回答した人では、「住民同士が支え合って生活している」についても「そう思う」と「やや思う」の合計が 79.3%となっています。これに対して、「ふれあいのあるまち」について「思わない」と回答した人では、「住民同士が支え合って生活している」についても「思わない」が 54.1%となっています。

このことから、地域のふれあいは、「住民同士が支え合って生活している」と関連していると考えられます。

		問 11④子どもから高齢者まで安心して暮らせる				
		1 そう 思う	2 やや 思う	3 さ ほ ど 思 わ な い	4 思 わ な い	5 わ か ら な い
問 11 ③住民同士が支 え合って生活 している	1 そう思う	40 (83.3)	7 (14.6)	1 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
	2 やや思う	59 (24.5)	154 (63.9)	22 (9.1)	3 (1.2)	3 (1.2)
	3 さほど思わない	24 (9.8)	125 (51.0)	85 (34.7)	5 (2.0)	6 (2.4)
	4 思わない	2 (2.9)	22 (31.9)	24 (34.8)	17 (24.6)	4 (5.8)
	5 わからない	6 (12.5)	21 (43.8)	2 (4.2)	1 (2.1)	18 (37.5)

また、「住民同士が支え合って生活している」について「そう思う」と回答した人の 83.3%が、「子どもから高齢者まで安心して暮らせる」についても「そう思う」と回答しています。これに対して、「住民同士が支え合って生活している」について「思わない」と回答した人では、「子どもから高齢者まで

安心して暮らせる」について「そう思う」は2.9%となっています。

以上の結果を踏まえると、安心して暮らせるまちであるという実感は、住民同士の支え合いに対する実感と関連していることがうかがえます。安心して暮らせるまちづくりを進めるうえでは、防犯・防災・福祉等の制度整備に加え、住民同士が顔の見える関係を持てる機会を増やし、住民同士の心理的な距離を縮めていくことが重要であると考えられます。

4 まちづくりへの市民参加について

意識調査の「問 11①市民がまちづくりに参加しやすい」と、「問 11②市民と行政が共に協力してまちづくりを進めている」の回答結果とのクロス集計結果は、次のとおりです。

		問 11②市民と行政が共に協力してまちづくりを進めている				
		1 そう 思う	2 やや 思う	3 さ ほ ど 思 わ な い	4 思 わ な い	5 わ か ら な い
問 11 ①市民がまちづく りに参加しやす い	1 そう思う	33 (70.2)	12 (25.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.3)
	2 やや思う	8 (4.3)	140 (74.5)	32 (17.0)	0 (0.0)	8 (4.3)
	3 さほど思わない	0 (0.0)	43 (16.0)	205 (76.2)	14 (5.2)	7 (2.6)
	4 思わない	0 (0.0)	1 (1.5)	16 (23.9)	44 (65.7)	6 (9.0)
	5 わからない	0 (0.0)	7 (8.3)	5 (6.0)	3 (3.6)	69 (82.1)

「市民がまちづくりに参加しやすい」について「そう思う」と回答した人では、「市民と行政が共に協力してまちづくりを進めている」についても「そう思う」と「やや思う」の合計が 95.7%となっています。これに対して、参加しやすいと「市民がまちづくりに参加しやすい」について「思わない」と回答した人では、「市民と行政が共に協力してまちづくりを進めている」について「そう思う」は0%となっています。

このことから、まちづくりへの市民参加の実感と、市民と行政の協働の実感は関連していると考えられます。

		問 10⑨ふれあいのあるまち			
		1 そう 思う	2 やや 思う	3 さ ほ ど 思 わ な い	4 思 わ な い
問 11 ①市民がまちづくりに 参加しやすい	1 そう思う	33 (73.3)	11 (24.4)	1 (2.2)	0 (0.0)
	2 やや思う	35 (18.8)	112 (60.2)	39 (21.0)	0 (0.0)
	3 さほど思わない	6 (2.2)	89 (33.2)	161 (60.1)	12 (4.5)
	4 思わない	1 (1.5)	13 (19.7)	33 (50.0)	19 (28.8)
	5 わからない	7 (8.5)	27 (32.9)	42 (51.2)	6 (7.3)

また、「市民がまちづくりに参加しやすい」について「そう思う」と回答した人の 73.3%が、「ふれあいのあるまち」についても「そう思う」と回答しています。これに対して、「市民がまちづくりに参加しやすい」について「思わない」と回答した人では、「ふれあいのあるまち」について「そう思う」は 1.5%となっています。

以上の結果を踏まえると、今後は、子育て世代、学生、高齢者及び転入者等の幅広い市民がまちづくりに関心を持ち、気軽に参加できる仕組みを整えることがより一層求められます。また、市民と行政が課題や目標を共有し、共に取り組むことで、市民の当事者意識を高め、ふれあいと協働に支えられた持続可能な地域づくりにつなげていくことが重要です。

5 結語

本再分析では、子育て・教育、防災、地域のふれあい、市民参加に関する一部の回答間の関係を整理・分析しました。その結果を踏まえると、市民の生活実感に結び付くよう、施策を相互に関連付けながら推進していくことが重要です。

市民が地域とのつながりを感じながら、安心して暮らし続けられる環境づくりを進めることで、ふれあいと支え合いに基づく、安全・安心で持続可能な地域づくりにつながっていくことが考えられます。

以 上